

令和3年度 全国学力・学習状況調査の結果について

全国学力・学習状況調査は、小学校第6学年と中学校第3学年を対象として平成19年度から実施されています。調査が開始された当初、網走市の平均正答率は、全国平均を10ポイント以上回る教科がありましたが、全国との差は年々縮まり、近年は一部の教科において全国平均を上回る状況が見られるようになりました。

改善の傾向にある中でも、学力・学習状況ともに改善を要する課題が見られることから、網走市子どもたちの力をより一層発揮させられるよう、教育委員会、学校、家庭、地域が連携・協働した取組を進めてまいります。

網走市教育委員会として、児童生徒一人一人が確かな学力を身に付けるための取組を充実させるため、網走市学力向上推進委員会とともに分析を行った市内小・中学校全体の調査結果について、今後の方策とともに公表いたします。

1. 調査の概要

1. 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 実施日 令和3年5月27日（木）

3. 調査の対象・児童生徒数

- 小学校第6学年 9校 254名
（網走小、中央小、西小、南小、潮見小、東小、白鳥台小、西が丘小、呼人小）
- 中学校第3学年 6校 245名
（第一中、第二中、第三中、第四中、第五中、呼人中）

4. 調査の内容

- ① 教科に関する調査（小学校：国語、算数 / 中学校：国語、数学）
 - ・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
 - ・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容※上記を一体的に問う。
- ② 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査
 - ・児童生徒に対する調査
 - ・学校に対する調査

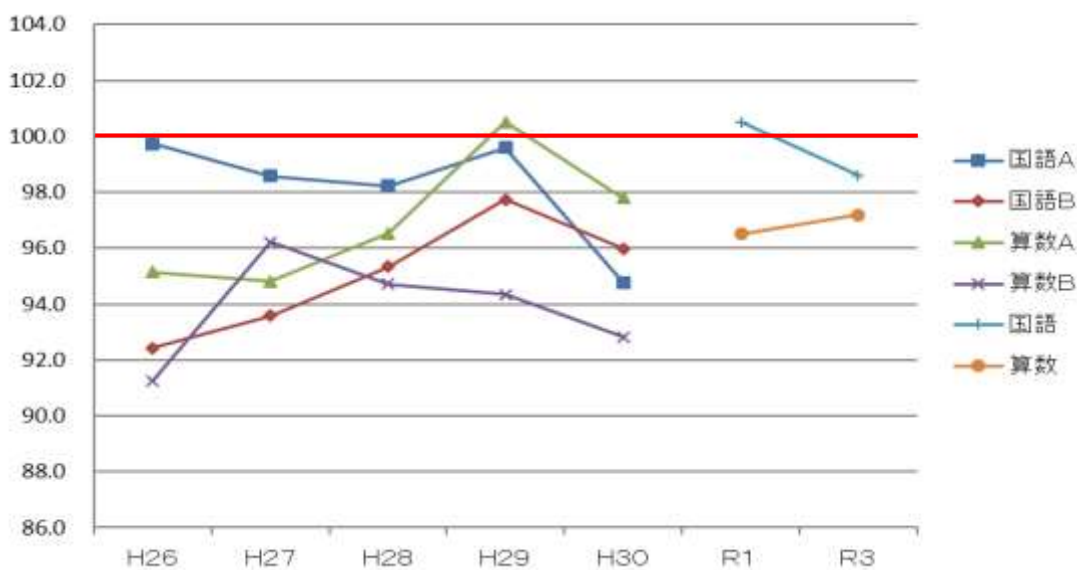
2. 結果の概要

(1) 平均正答率・平均正答数

教科		小学校		中学校	
		国語	算数	国語	数学
問題数		14問	16問	14問	16問
平均 正答率 (ポイント)	網走市	63.8	68.2	62.0	53.5
	北海道	63.2	67.5	64.5	55.9
	全国	64.7	70.2	64.6	57.2
北海道との差		+0.6	+0.7	-2.5	-2.4
全国との差		-0.9	-2.0	-2.6	-3.7
平均 正答数 (問)	網走市	8.9	10.9	8.7	8.6
	北海道	8.9	10.8	9.0	8.9
	全国	9.1	11.2	9.0	9.1
北海道との差(問)		0.0	+0.1	-0.3	-0.2
全国との差(問)		-0.2	-0.3	-0.3	-0.5

※平均正答率～各教科それぞれの平均正答数を設問数で割った値の百分率。

(2) 網走市《小学校》の平均正答率の推移



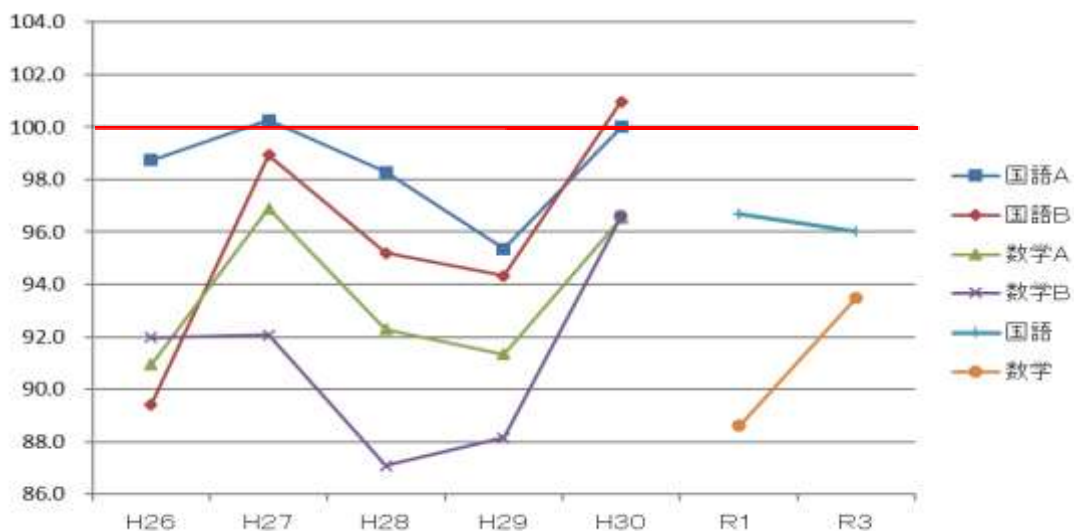
小学校	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R3
国語A	99.7	98.6	98.2	99.6	94.8	100.5	98.6
国語B	92.4	93.6	95.3	97.7	96.0		
算数A	95.1	94.8	96.5	100.5	97.8	96.5	97.2
算数B	91.3	96.2	94.7	94.3	92.8		

※調査問題は毎年異なり、平均正答率を年度間で比較できないため、全国平均を100とした時の網走市の正答率で比較。

※国語と算数は、平成31年度(令和元年度)から「知識」と「活用」を一体的に問う問題形式で実施。

※令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、全国調査は実施されていない。

(4) 網走市《中学校》の平均正答率の推移



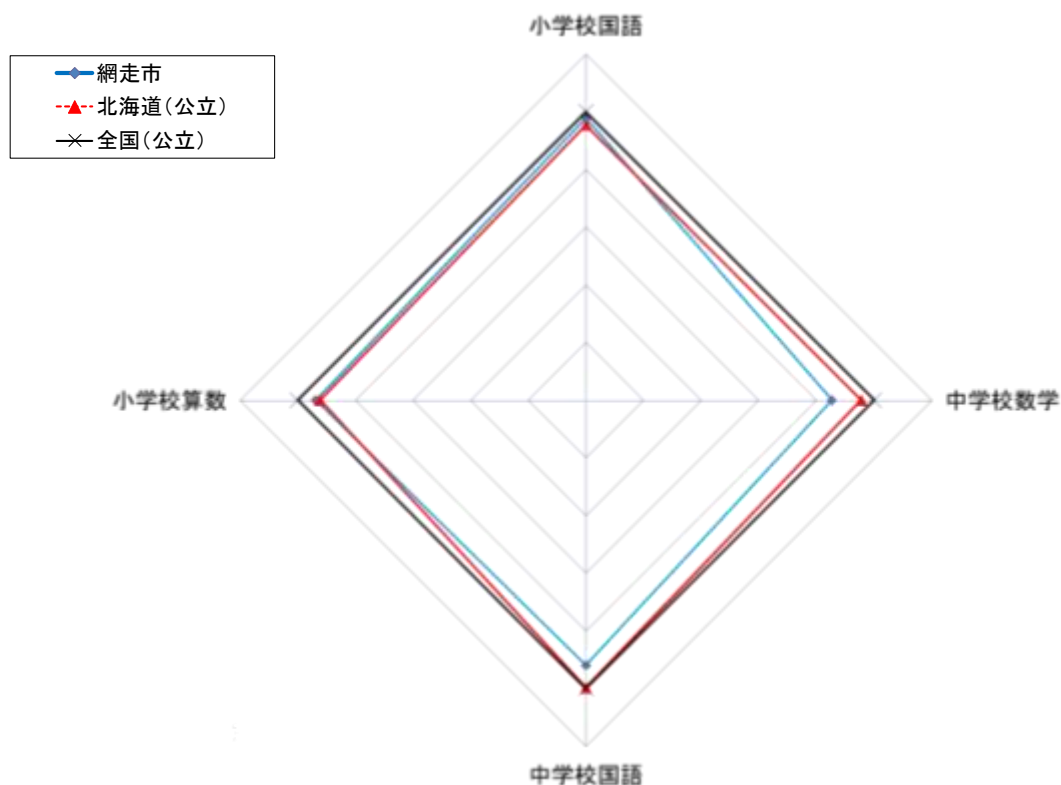
中学校	H 2 6	H 2 7	H 2 8	H 2 9	H 3 0	R 1	R 3
国語A	98.7	100.3	98.3	95.3	100.0	96.7	96.0
国語B	89.4	98.9	95.2	94.3	101.0		
数学A	90.9	96.9	92.3	91.3	96.5	88.6	93.5
数学B	92.0	92.1	87.1	88.1	96.6		

※調査問題は毎年異なり、平均正答率を年度間で比較できないため、全国平均を100とした時の網走市の正答率で比較。
 ※国語と数学は、平成31年度（令和元年度）から「知識」と「活用」を一体的に問う問題形式で実施。
 ※令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、全国調査は実施されていない。

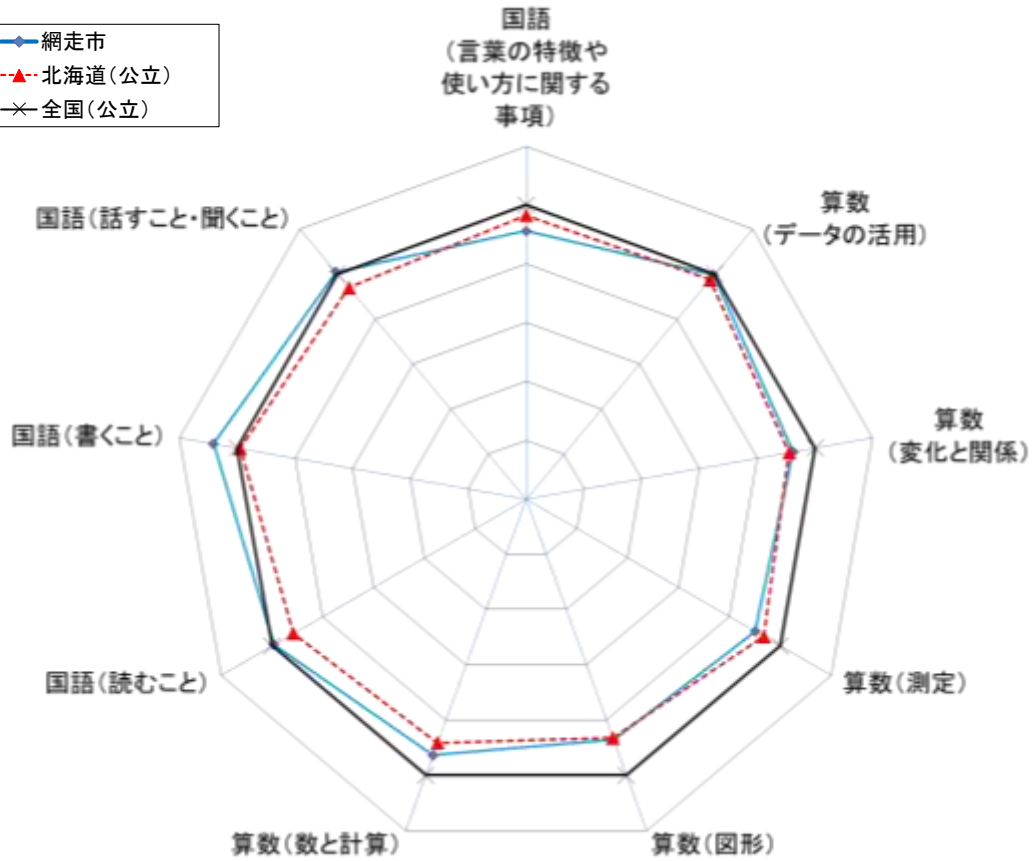
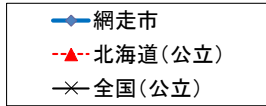
(5) 各教科領域別の状況（レーダーチャート）

《 各教科領域別の状況 》

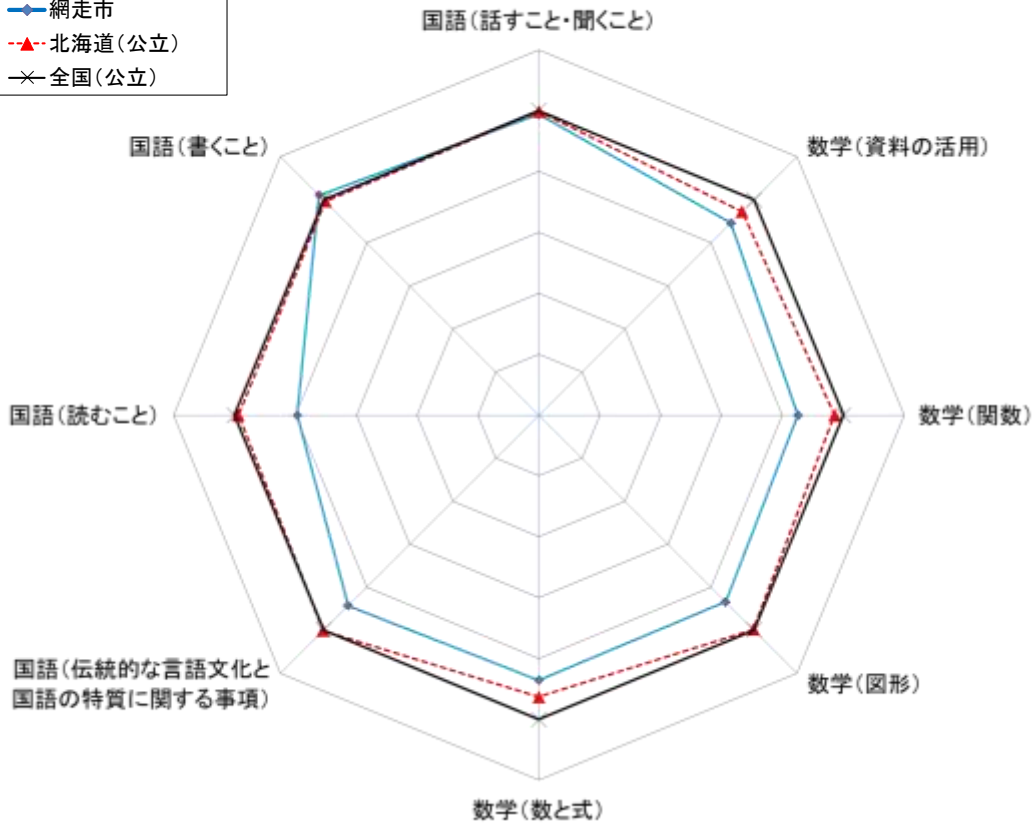
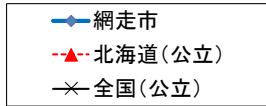
全教科(小学校・中学校)



小学校



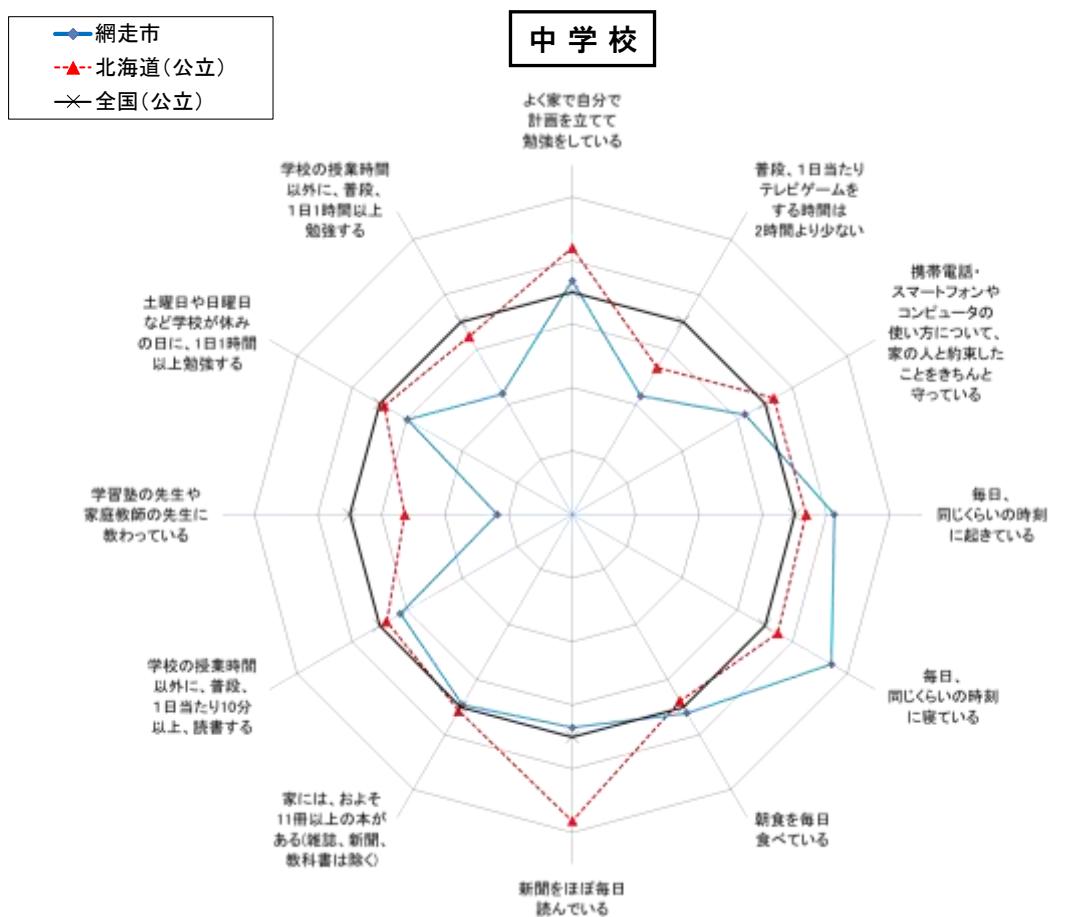
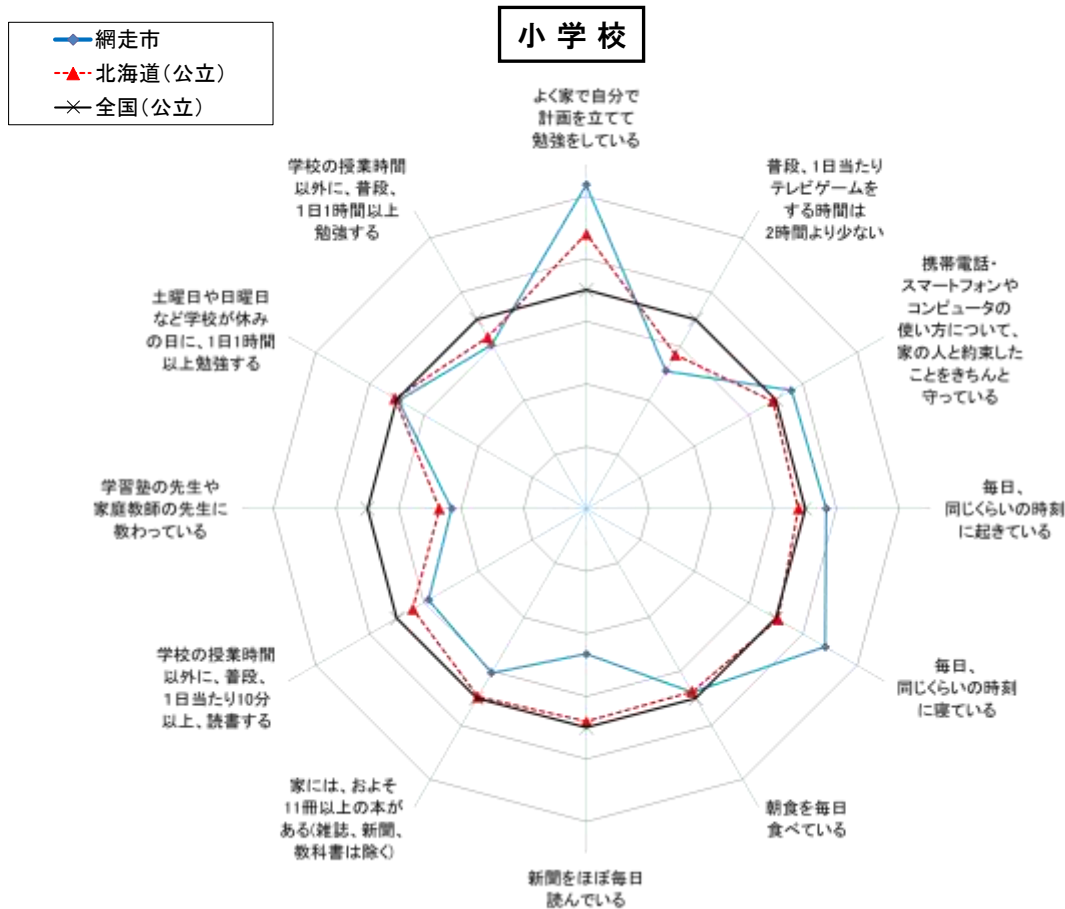
中学校



教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものの(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)

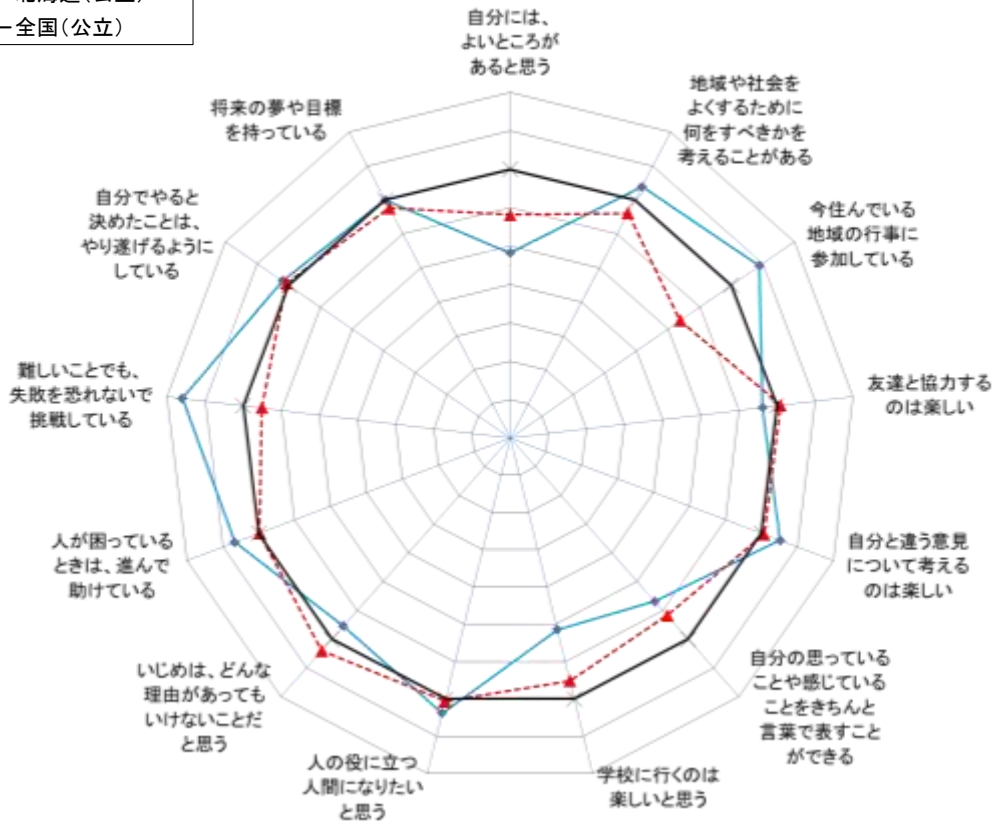
(6) 児童生徒質問紙調査の状況 (レーダーチャート)

《 学習習慣 ・ 生活習慣 》



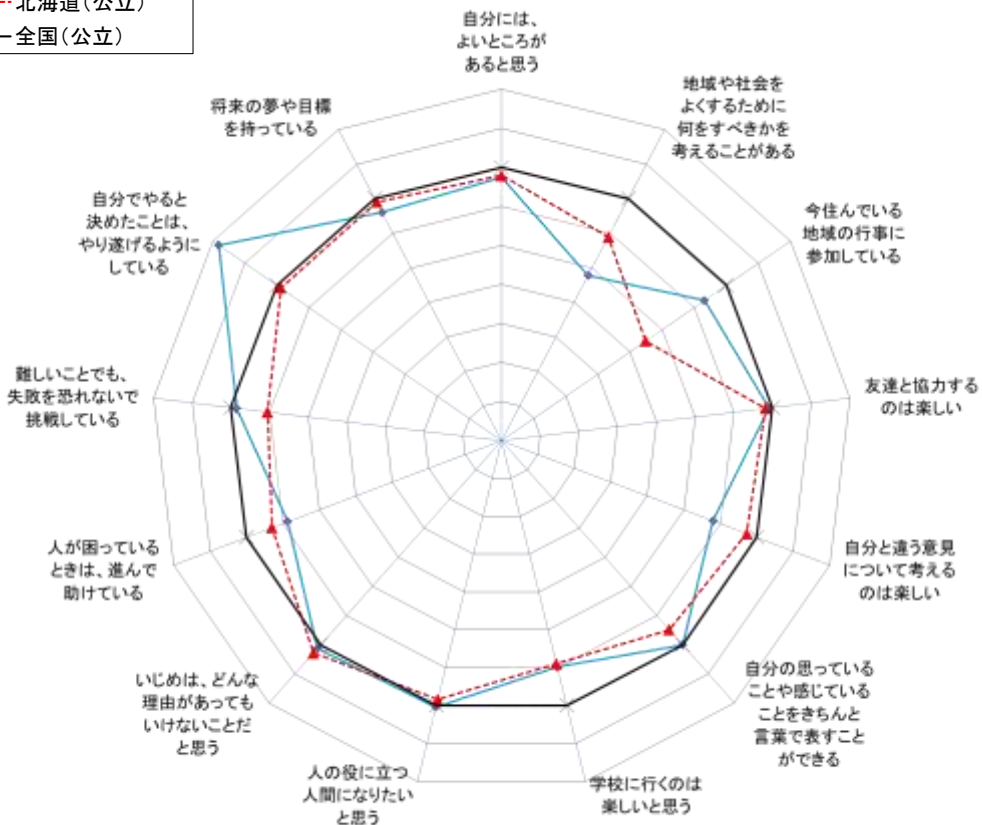
小学校

- ◆ 網走市
- ▲ 北海道(公立)
- × 全国(公立)



中学校

- ◆ 網走市
- ▲ 北海道(公立)
- × 全国(公立)



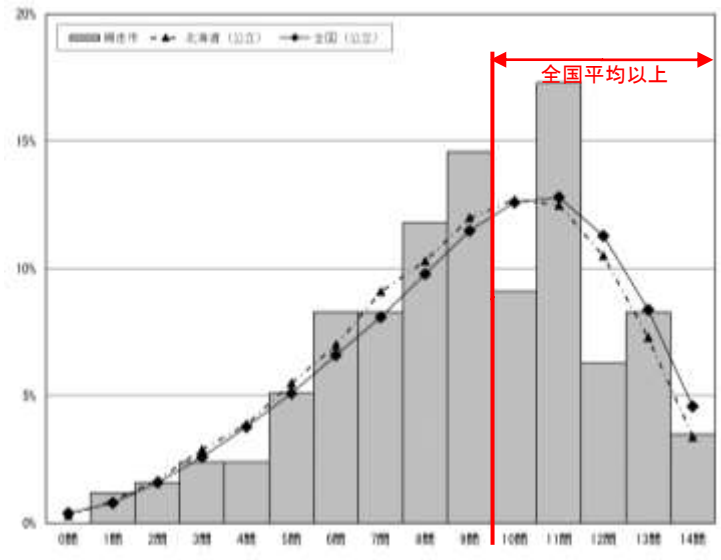
3. 教科に関する調査

○小学校 国語

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
			網走市	北海道(公立)	全国(公立)
全体		14	63.8	63.2	64.7
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使いに関する事項	65.3	67.1	68.3
		(2) 情報の扱いに関する事項			
		(3) 我が国の言語文化に関する事項			
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	78.1	75.4	77.8
		B 書くこと	63.2	60.4	60.7
C 読むこと		47.0	45.2	47.2	
評価の観点	知識・技能	65.3	67.1	68.3	
	思考・判断・表現	62.7	60.3	62.1	
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	8	70.8	69.8	71.7
	短答式	3	69.6	70.6	70.6
	記述式	3	39.5	38.3	40.2

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の内容					評価の観点	問題形式	正答率(%)			無解答率(%)			
			知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度			網走市	全国(公立)	全国との差	網走市	全国(公立)		
正答率が高かった問題 (上位3問)																
2二	面ファスナーに関する【資料】の文章の中の「より」と同じ使い方として適切なものを選択する	思考に関わる語句の使い方を理解し、話や文章の中で使う	5・6オ					○	○			87.4	87.5	-0.1	0.4	0.3
1三	津田楠子についての【スピーチ】の練習の【.....】の部分で話す内容として適切なものを選択する	目的や意図に応じ、資料を使って話す			5・6ツ			○	○			82.3	81.0	1.3	0.0	0.4
1二	津田楠子についての【スピーチ】の練習で、【資料②】と【資料③】を使った理由の説明として適切なものを選択する	資料を用いた目的を理解する			5・6ツ			○	○			79.5	74.9	4.6	0.4	0.4
正答率が低かった問題 (下位3問)																
3三(2)オ	丸山さんの【文章の下書き】の中の——部分で、~~~~部「すぐに」がくわしくしている言葉として適切なものを選択する	文の中における修飾と被修飾との関係をつかえる	3・4カ					○	○			35.4	43.6	-8.2	2.4	4.1
2三	面ファスナーに関する【資料】を読み、メストラルは、何をヒントに、どのような仕組みの面ファスナーを作り出したのかをまとめて書く	目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付ける			5・6ツ			○		○		31.9	34.4	-2.5	4.3	4.1
2四	轟ゆき女中【皮調子不審者封印の巻】——部分で、面ファスナーが「面調子不審者封印」をどうやって封印したのかをまとめて書く	目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約する			3・4ツ			○		○		29.5	29.7	-0.2	9.1	5.5

【正答数分布グラフ(横軸:正答数, 縦軸:割合)】



【小学校国語の概要】

- 正答率の全国平均との差は、-0.9ポイント。
- 正答率が全国平均を上回った問題は14問中7問。
- 学習指導要領の領域別(4領域から出題)では、2領域で全国を上回っている。
- 問題形式別では「選択式」「短答式」「記述式」ともに全国を下回っている。
- 平均正答数が10問(全国平均)以上の割合
 全国 ~ 49.7%
 網走 ~ 44.5%

○小学校 算数

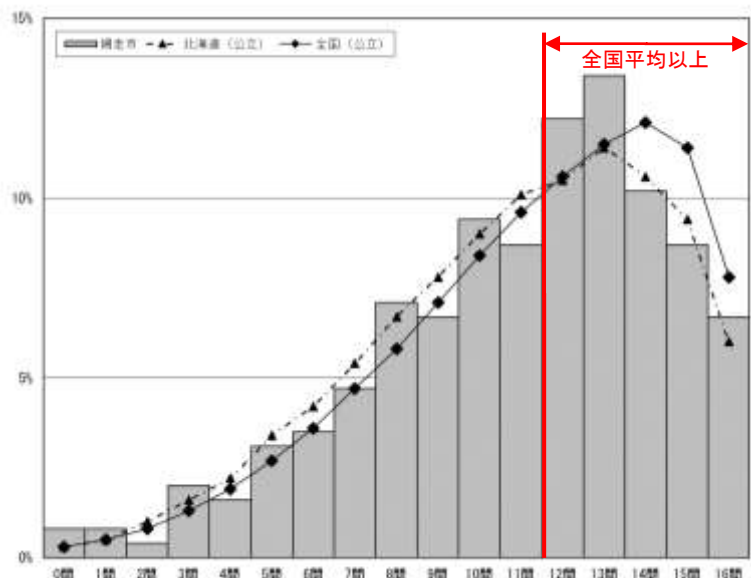
分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
			網走市	北海道(公立)	全国(公立)
全体		16	68.2	67.5	70.2
学習指導要領の領域	A 数と計算	4	60.8	59.4	63.1
	B 図形	3	54.2	54.0	57.9
	C 測定	3	71.1	72.4	74.8
	C 変化と関係	3	73.0	72.5	75.9
	D データの活用	5	75.8	75.0	76.0
評価の観点	知識・技能	9	72.4	71.3	74.1
	思考・判断・表現	7	62.8	62.5	65.1
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	6	75.0	74.6	76.0
	短答式	6	73.4	72.3	75.8
	記述式	4	50.3	49.5	53.0

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域					評価の観点			問題形式			正答率(%)			無解答率(%)			
			A 数と 計算	B 図形	C 測定	C 変化と 関係	D データの 活用	知識・ 技能	思考・ 判断・ 表現	主体的 に学習 に 取り組 む 態度	選 択 式	短 答 式	記 述 式	網 走 市	全 国 (公 立)	全 国 との 差	網 走 市	全 国 (公 立)		
正答率が高かった問題(上位3問)																				
3(1)	6年生の本の貸し出し冊数を、棒グラフから読み取って選ぶ	棒グラフから、数量を読み取ることができる					5(1) 7(4)	○		○						95.7	95.8	-0.1	0.4	0.4
3(2)	学年ごとの本の貸し出し冊数について、棒グラフから分かることを選ぶ	棒グラフから、項目間の関係を読み取ることができる					5(1) 7(4)	○		○						91.7	90.7	1.0	0.4	0.4
1(2)	500mを歩くのに7分かかるとを基に、1000mを歩くのにかかる時間を書く	速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察することができる					5(1) 7(2) 4(7)		○		○					85.8	86.7	-0.9	3.9	1.7
正答率が低かった問題(下位3問)																				
3(4)	棒グラフから、割合の違いが、一番大きい項目を選び、その項目と割合を書く	棒グラフで表された複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合を記述できる					5(1) 7(7) ※		○			○				49.2	52.0	-2.8	16.9	10.3
4(3)	30mを1としたときに12mが0.4に当たるわけを書く	小数を用いた倍についての説明を解釈し、ほかの数値の場合に適用して、基準量を1としたときに比較量が示された小数に当たる理由を記述できる	4(4) 7(7) ※						○			○				46.9	51.5	-4.6	16.5	10.3
2(3)	二等辺三角形を組み合わせた平行四辺形の面積の求め方と答えを書く	複数の図形を組み合わせた平行四辺形について、図形を構成する要素などに着目し、図形の構成の仕方を捉えて、面積の求め方と答えを記述できる					5(3) 7(7) ※		○			○				45.7	46.0	-0.3	7.5	4.6

【正答数分布グラフ(横軸:正答数, 縦軸:割合)】

【小学校算数の概要】

- 正答率の全国平均との差は、-2.0ポイント。
- 正答率が全国平均を上回った問題は16問中2問。
- 学習指導要領の領域別(5領域から出題)では、全領域で全国を下回っている。
- 問題形式別では、「選択式」「短答式」「記述式」ともに全国を下回っている。
- 平均正答数が12問(全国平均)以上の割合
 全国 ~ 53.4%
 網走 ~ 53.5%

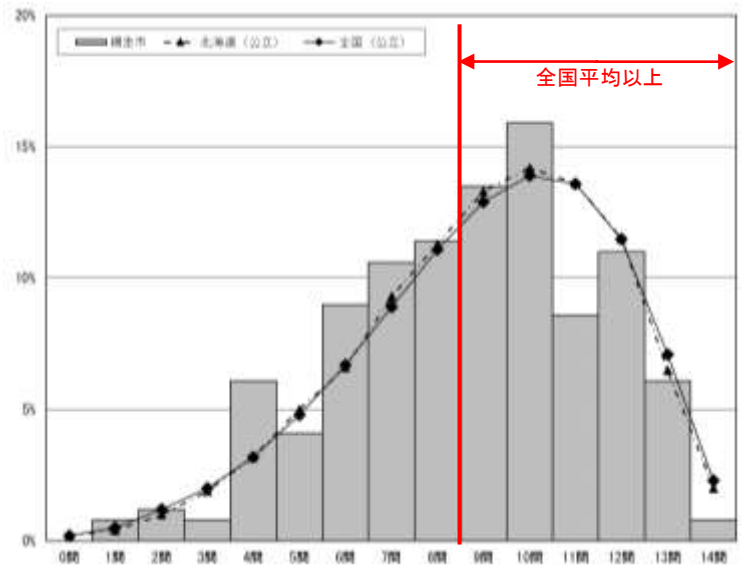


○中学校 国語

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
			網走市	北海道(公立)	全国(公立)
全体		14	62.0	64.5	64.6
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	3	79.3	79.7	79.8
	書くこと	3	57.7	56.9	57.1
	読むこと	4	43.5	48.2	48.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	4	70.8	75.2	75.1
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	4	54.6	55.3	56.0
	話す・聞く能力	3	79.3	79.7	79.8
	書く能力	3	57.7	56.9	57.1
	読む能力	4	43.5	48.2	48.5
	言語についての知識・理解・技能	4	70.8	75.2	75.1
問題形式	選択式	6	61.3	63.9	63.9
	短答式	4	70.5	74.7	74.4
	記述式	4	54.6	55.3	56.0

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等			評価の観点			問題形式			正答率(%)			無解答率(%)		
			話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	選択式	短答式	記述式	網走市	全国(公立)	全国との差
正答率が高かった問題 (上位3問)																	
4-①	漢字を読む(組ばして)	文脈に即して漢字を正しく読む			2(1) 1(0)					○	○		97.1	97.5	-0.4	1.2	1.5
4-②	漢字を読む(註解)	文脈に即して漢字を正しく読む			2(1) 1(0)					○	○		89.4	88.8	0.6	1.6	2.3
1-	話し合いでの司会の発言の役割について説明したものととして適切なものを選択する	話し合いの話題や方向を捉える	1 オ							○	○		89.0	89.7	-0.7	0.0	0.2
正答率が低かった問題 (下位3問)																	
4三	「行く」を適切な敬語に書き直し、その敬語の種類として適切なものを選択する	相手や場に応じて敬語を適切に使う			2(1) 1(0)					○	○		29.4	40.3	-10.9	0.4	1.7
2-	意見文の下書きを直した意図として適切なものを選択する	書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係に注意して書く	2 エ							○	○		27.8	24.8	3.0	0.0	0.3
4三	「行く」を適切な敬語に書き直し、その敬語の種類として適切なものを選択する	相手や場に応じて敬語を適切に使う			2(1) 1(0)					○	○		29.4	40.3	-10.9	0.4	1.7

【正答数分布グラフ(横軸:正答数, 縦軸:割合)】



【中学校国語の概要】

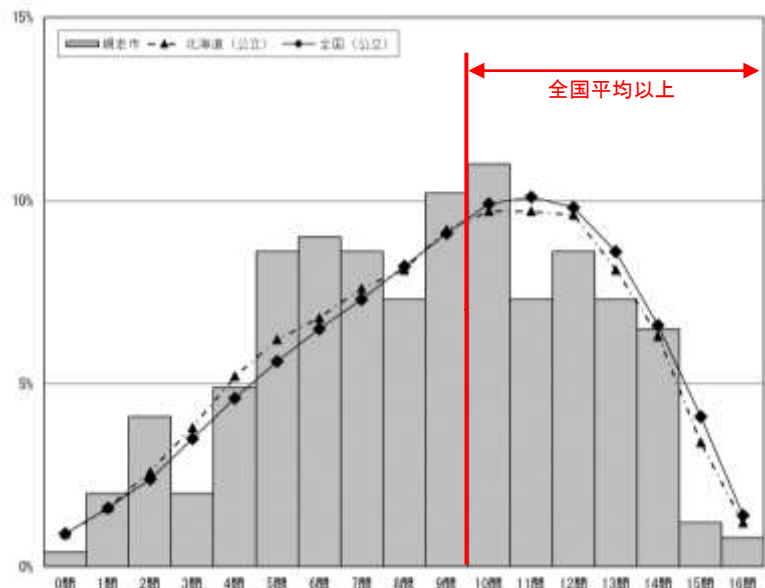
- 正答率の全国平均との差は、
-2.6ポイント。
- 正答率が全国平均を上回った
問題は14問中4問。
- 学習指導要領の領域別(4領
域から出題)では、1領域で全
国を上回っている。
- 問題形式別では、「選択式」
「短答式」「記述式」ともに全
国を下回っている。
- 平均正答数が9問(全国平均)
以上の割合
全国 ~ 61.3%
網走 ~ 55.9%

○中学校 数学

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
			網走市	北海道(公立)	全国(公立)
全体		16	53.5	55.9	57.2
学習指導要領の領域	数と式	5	60.7	62.5	64.9
	図形	4	48.0	51.3	51.4
	関数	3	52.2	55.6	56.4
	資料の活用	4	50.9	52.3	53.8
評価の観点	数学への関心・意欲・態度	0			
	数学的な見方や考え方	7	37.4	39.9	41.1
	数学的な技能	3	76.2	75.1	77.7
	数量や図形などについての知識・理解	6	60.9	64.9	65.6
問題形式	選択式	2	47.6	52.0	52.4
	短答式	9	67.2	69.2	70.5
	記述式	5	31.2	33.5	35.0

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等				評価の観点			問題形式			正答率(%)			無解答率(%)	
			数と式	図形	関数	資料の活用	数学への関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	数量や図形などについての知識・理解	選択式	短答式	記述式	網走市	全国(公立)	全国との差	網走市
正答率が高かった問題(上位3問)																	
7(1)	与えられた表やグラフから、砂の重さが75gのときに、砂が落ちきるまでの時間が36.0秒であったことを表す点を求める	与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができる			1(1)ア				○		○		93.1	93.5	-0.4	2.4	2.0
5	反復標とびの記録の中央値を求める	与えられたデータから中央値を求めることができる			1(1)ア				○		○		86.1	84.5	1.6	2.0	1.0
6(1)	四角で囲んだ4つの数が12, 13, 17, 18のとき、それらの和が4の倍数になるかどうかを確かめる式を書く	問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる			2(1)イ,ウ				○		○		80.4	83.9	-3.5	6.1	3.5
正答率が低かった問題(下位3問)																	
6(3)	四角で4つの数を囲むとき、四角で囲んだ4つの数の和がどの位置にある2つの数の和の2倍であるかを説明する	数学的な結果を事象に即して解釈し、事柄の特徴を数学的に説明することができる			2(1)イ,ウ				○		○		26.5	30.3	-3.8	40.4	29.9
7(2)	与えられた表やグラフを用いて、2分をはかるために必要な砂の量を求める方法を説明する	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる			1(1)エ,オ				○		○		23.7	27.7	-4.0	29.0	24.7
8(3)	「日照時間が6時間以上の日は、6時間未満の日より気温差が大きい傾向にある」と主張できる理由を、グラフの特徴を基に説明する	データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる			1(1)イ				○		○		9.8	11.1	-1.3	36.7	32.2

【正答数分布グラフ(横軸:正答数, 縦軸:割合)】



【中学校数学の概要】

- 正答率の全国平均との差は、**-3.7ポイント**。
- 正答率が全国平均を上回った問題は**16問中2問**。
- 学習指導要領の領域別(4領域から出題)では、**全領域で全国を下回っている**。
- 問題形式別では、「**選択式**」「**短答式**」「**記述式**」ともに**全国を下回っている**。
- 平均正答数が**10問(全国平均)以上の割合**
 全国 ~ 50.5%
 網走 ~ 42.7%

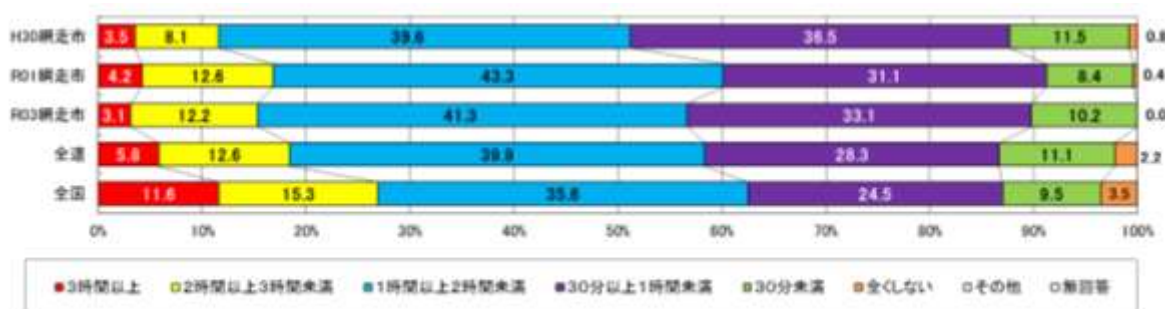
4. 児童生徒質問紙調査

(1) 学習習慣・読書習慣の概要

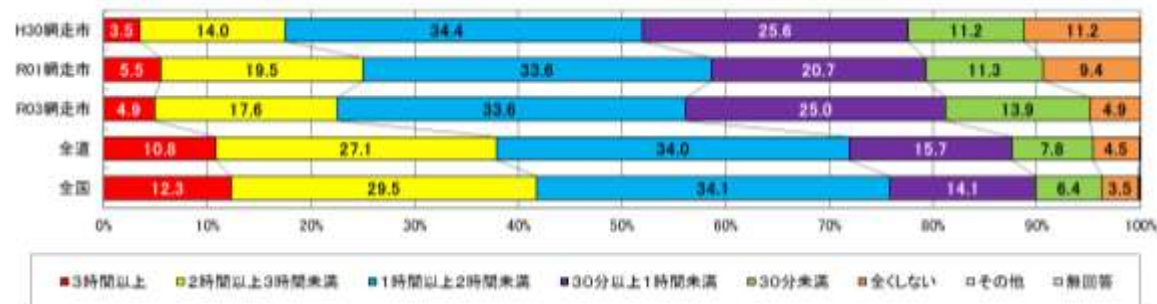
- 「学校の授業時間以外に、普段、1日当たり1時間以上勉強している」は、小学校、中学校ともに全国平均より低い傾向を示しているが、小学校、中学校ともに、「全くしない」児童生徒の割合が改善の傾向にある。小学校では、「30分以上勉強している」児童の割合が、全国平均よりも高い傾向を示している。
- 小学校、中学校ともに、「よく家で自分で計画を立てて勉強している」児童生徒の割合が、全国平均より高い傾向を示している。
- 「学校の授業時間以外で読書をする時間」は、小学校、中学校ともに、「10分以上読書をする」割合が全国より低い傾向を示している。

○「学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」

小学校

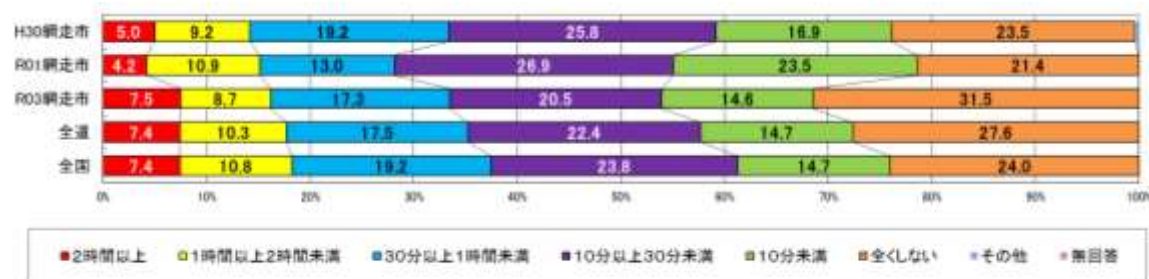


中学校



○「学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか」

小学校



中学校



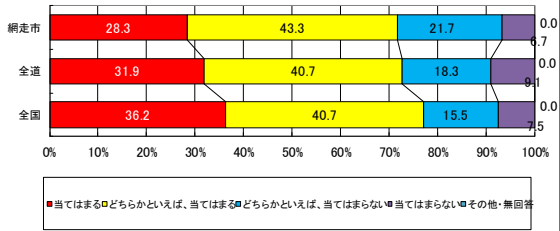
(2) 児童生徒質問紙と学校質問紙の比較

小学校

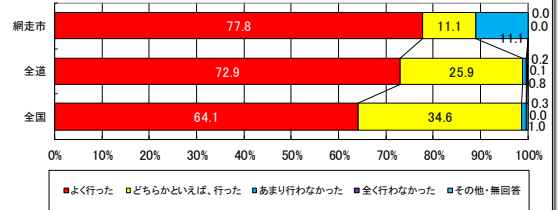
児童質問紙

学校質問紙

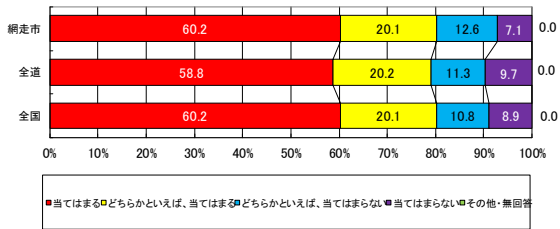
自分には、よいところがあると思いますか



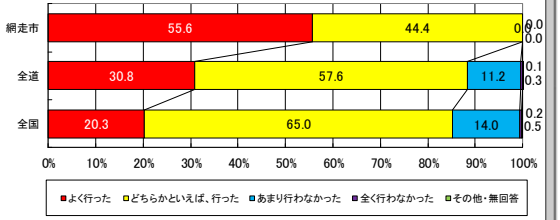
学校生活の中で、児童一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する(褒めるなど)取組を行いましたか



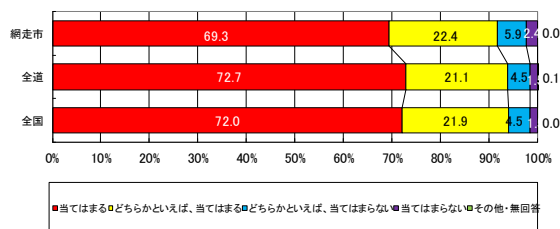
将来の夢や目標を持っていますか



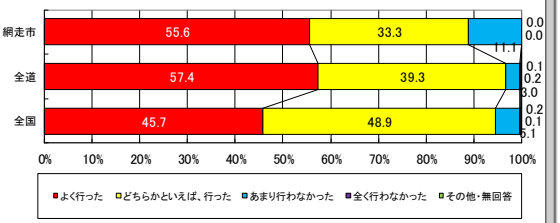
将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか



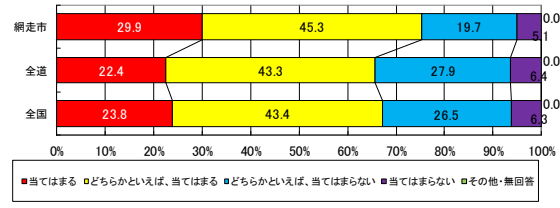
友達と協力するのは楽しいと思いますか



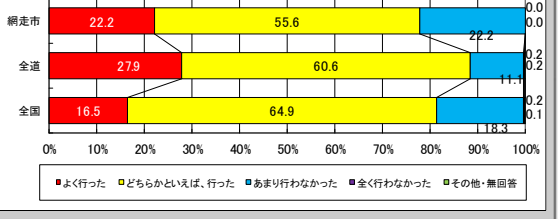
学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えましたか



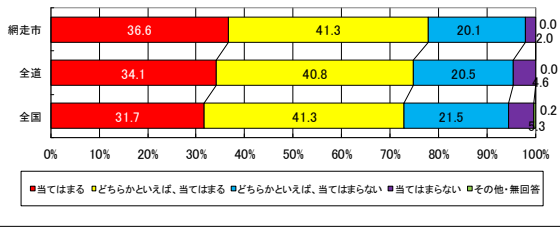
授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめたり、思いや考えをもとに新しいものを作り出したりする活動を行いましたか



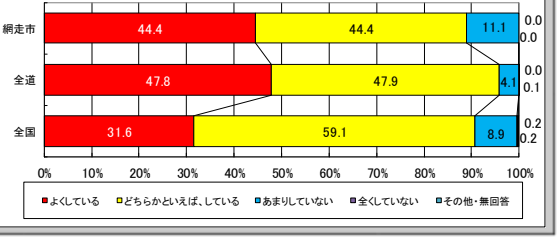
各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか



総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか

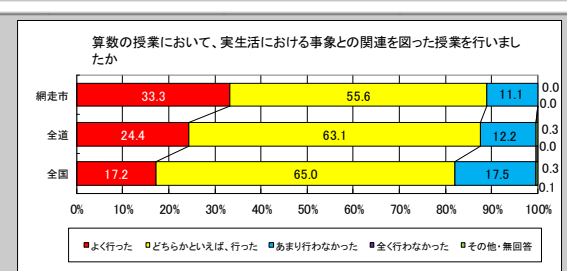
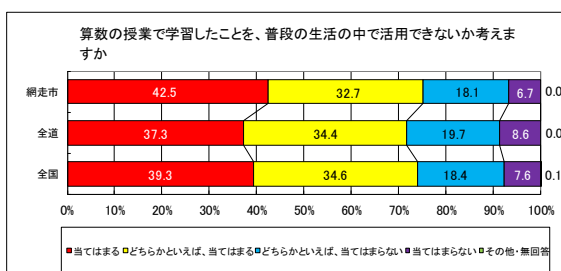
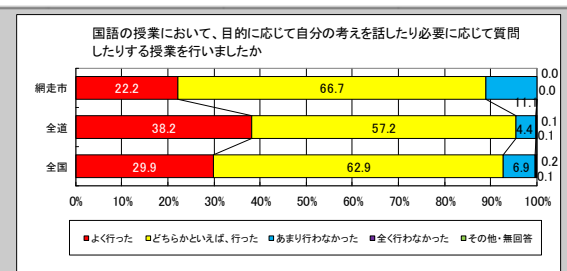
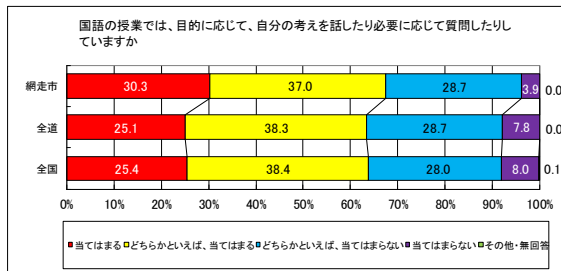
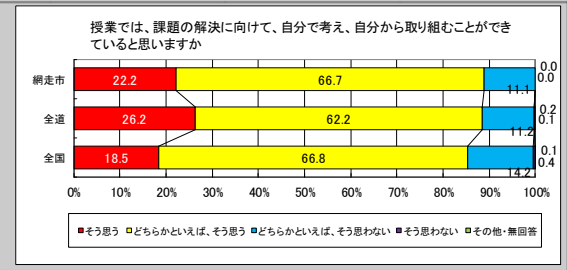
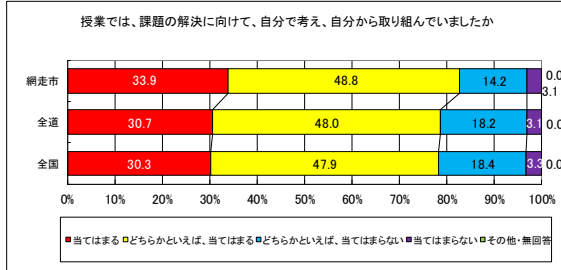
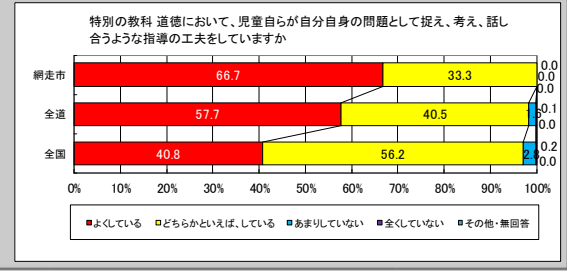
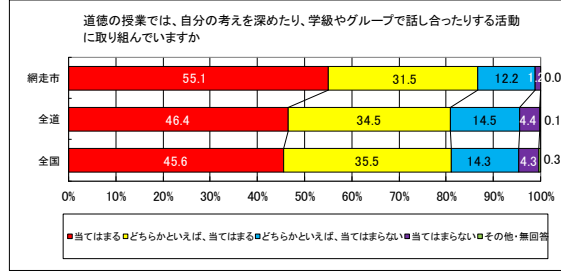
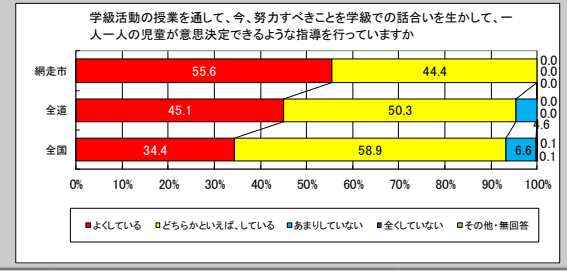
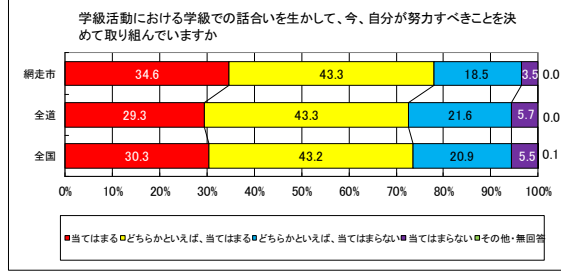
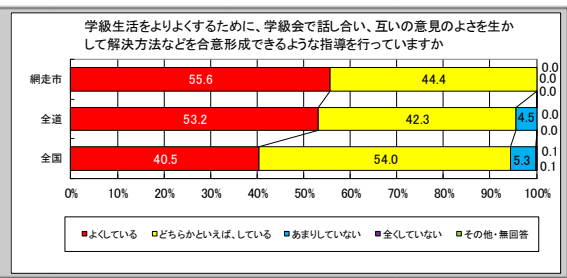
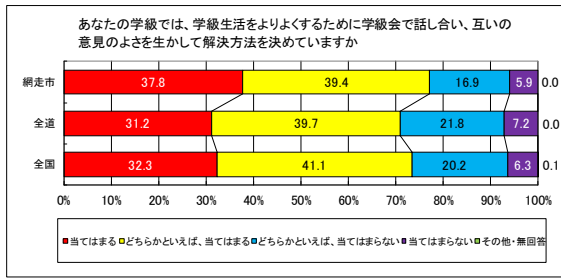


総合的な学習の時間で、課題の設定からまとめ・表現に至る探求の過程を意識した指導をしていますか



児童質問紙

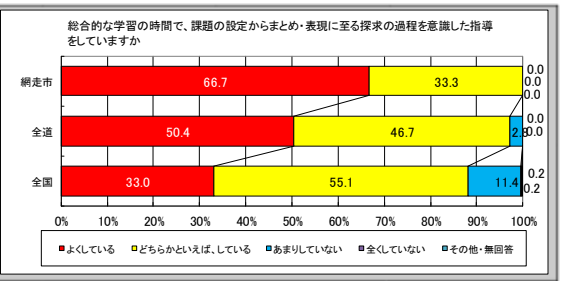
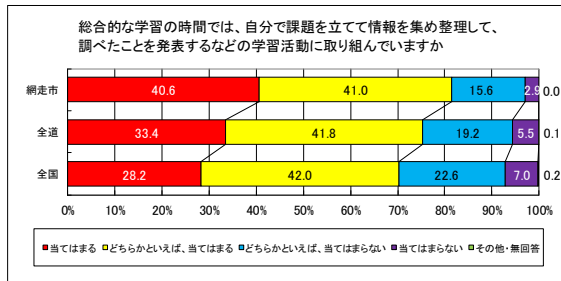
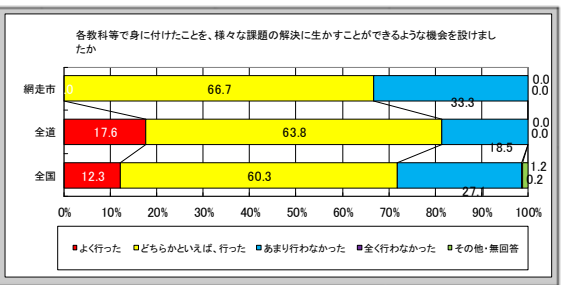
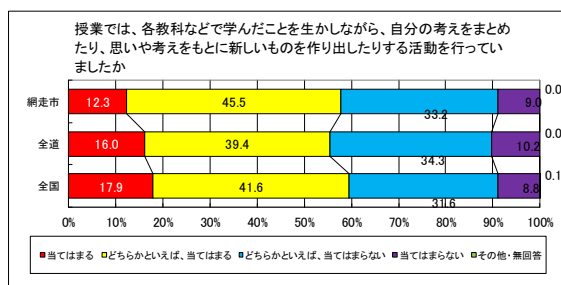
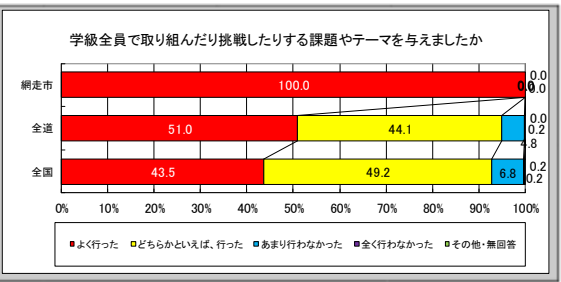
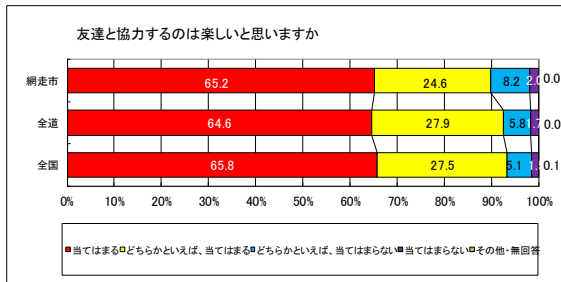
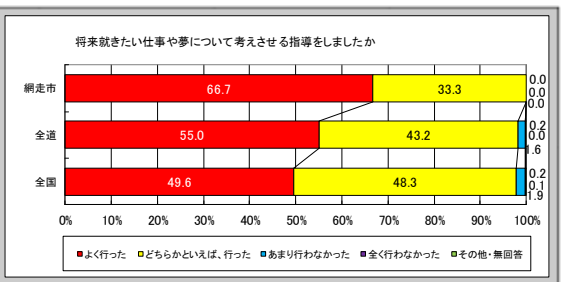
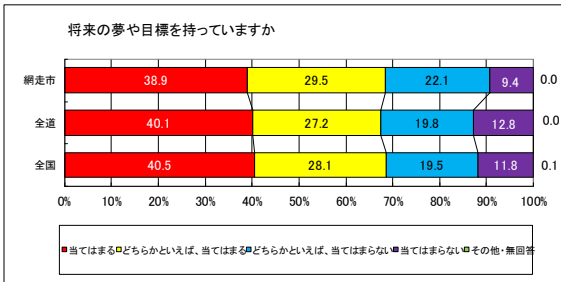
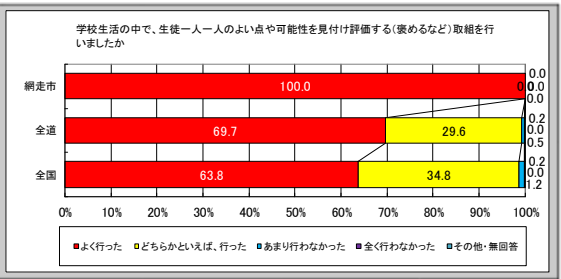
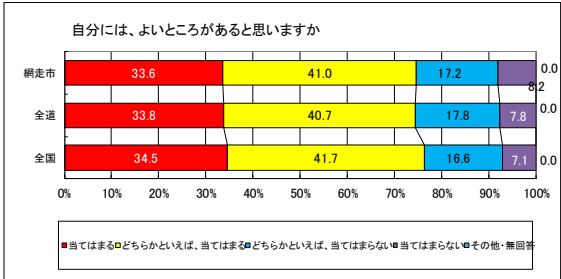
学校質問紙



中学校

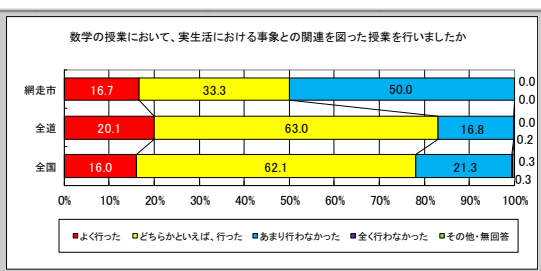
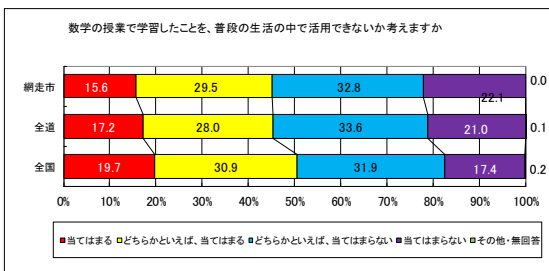
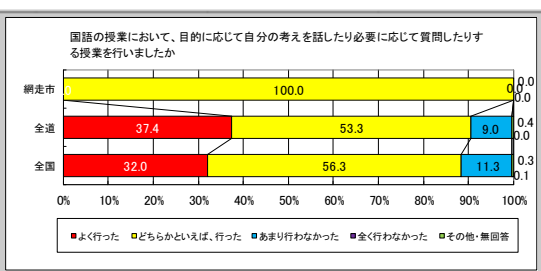
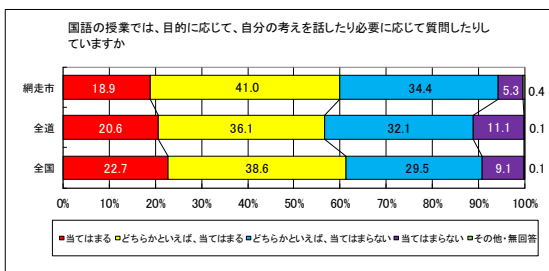
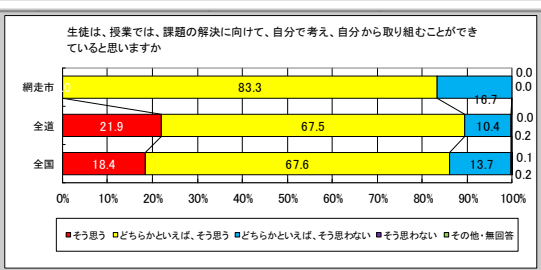
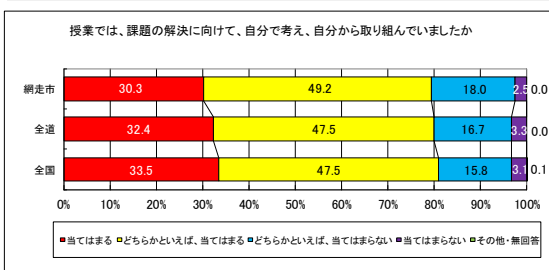
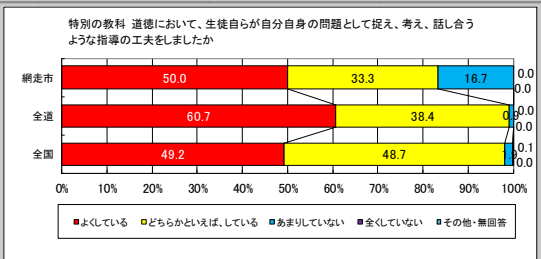
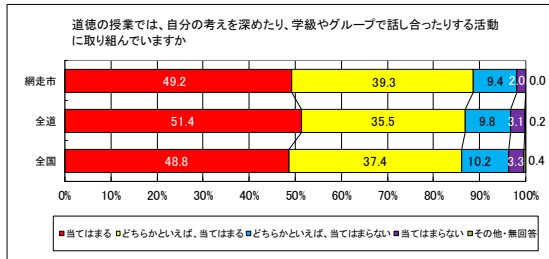
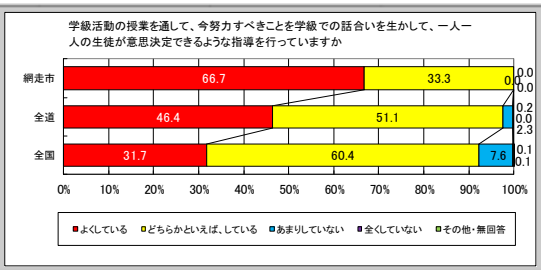
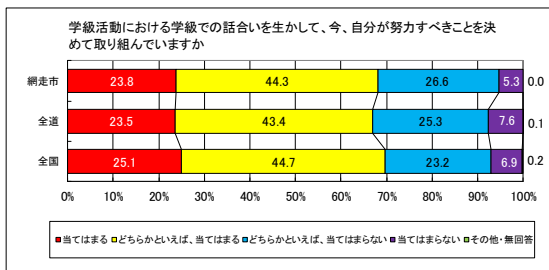
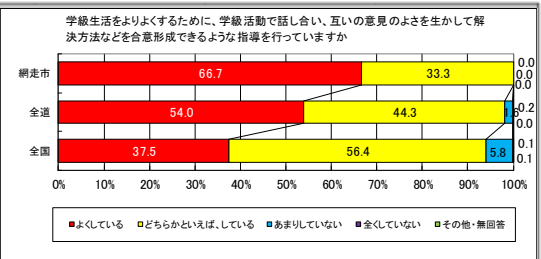
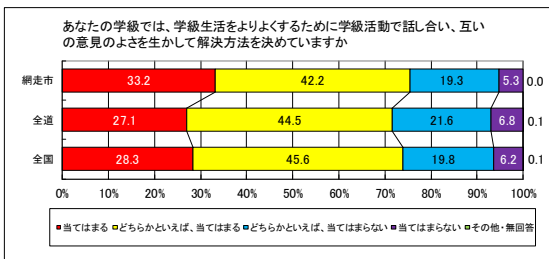
生徒質問紙

学校質問紙



生徒質問紙

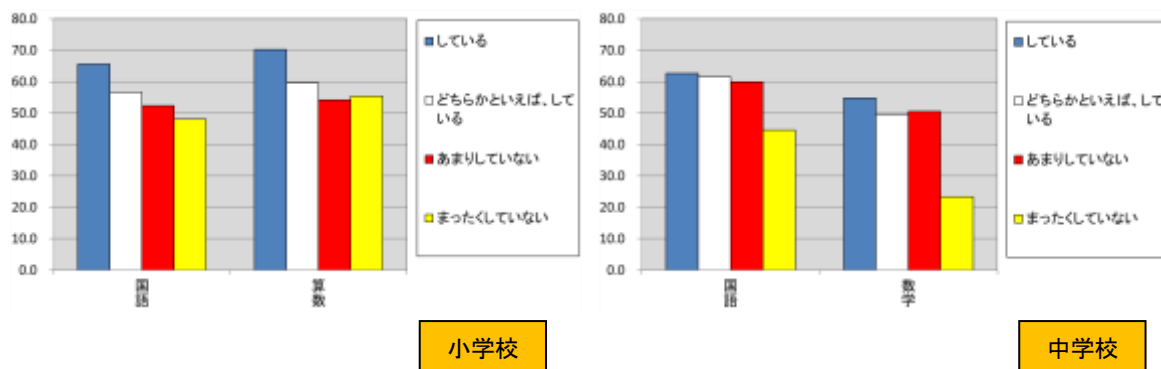
学校質問紙



5. 質問紙調査と平均正答率の相関

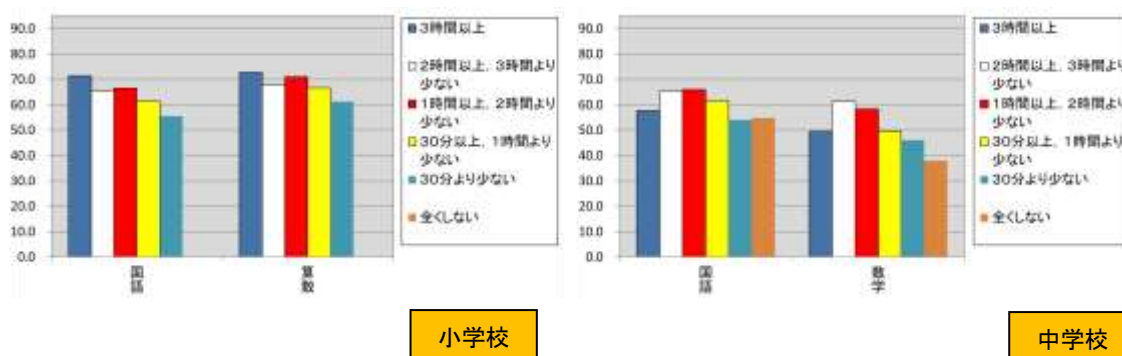
(1) 「朝食を毎日食べている」と正答率の相関

「している」「どちらかといえば、している」と回答した児童生徒の方が「あまりしていない」「まったくしていない」と回答した児童生徒に比べ、平均正答率が高い傾向にある。



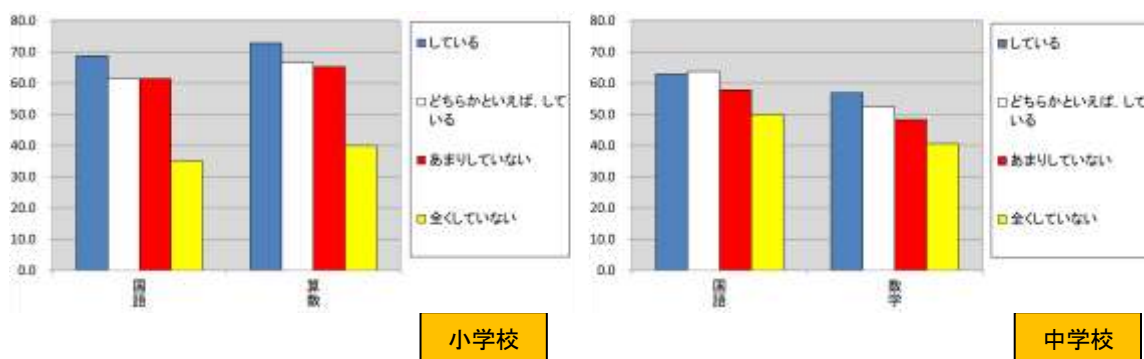
(2) 「学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）1日当たりどれぐらいの時間、勉強をしているか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）」と正答率の相関

「学校の授業時間以外に勉強をする時間が長い」児童生徒の方が、「学校の授業時間以外に勉強をする時間が短い」児童生徒に比べ、平均正答率が高い傾向にある。



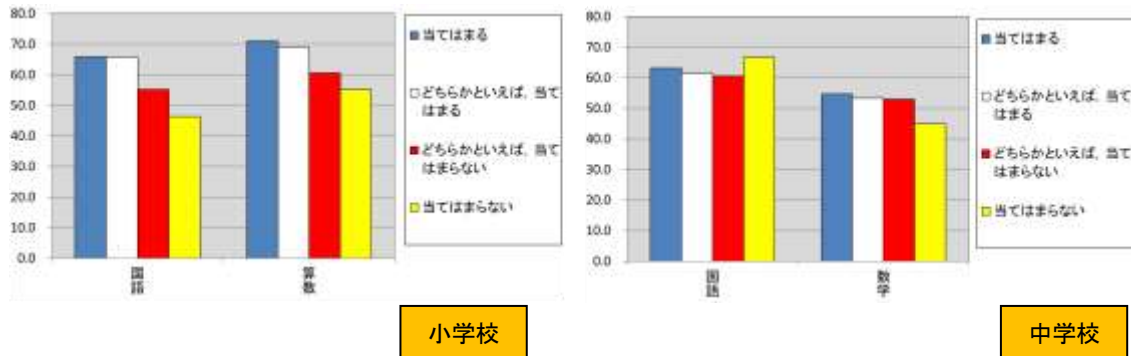
(3) 「毎日、同じぐらいの時刻に寝ている」と正答率の相関

「している」「どちらかといえば、している」と回答した児童生徒の方が「あまりしていない」「まったくしていない」と回答した児童生徒に比べ、平均正答率が高い傾向にある。



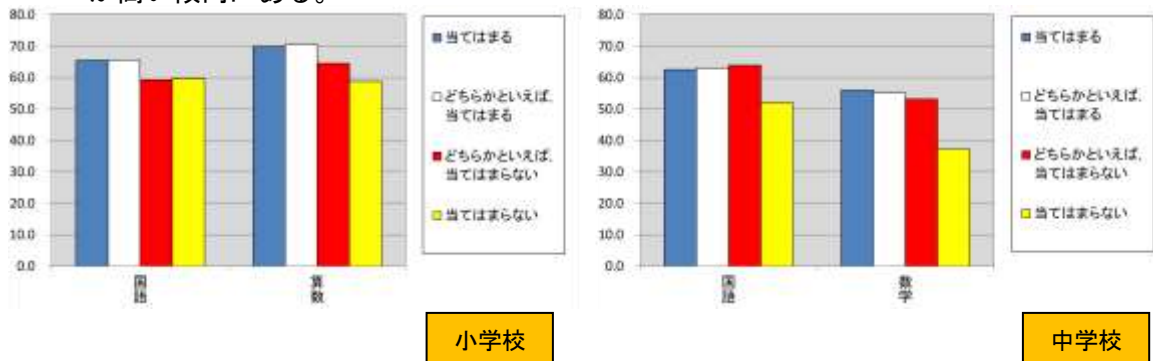
(4) 「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしている」と正答率の相関

「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒は、「どちらかといえばあてはまらない」「当てはまらない」と回答した児童生徒に比べ、平均正答率が高い傾向にある。



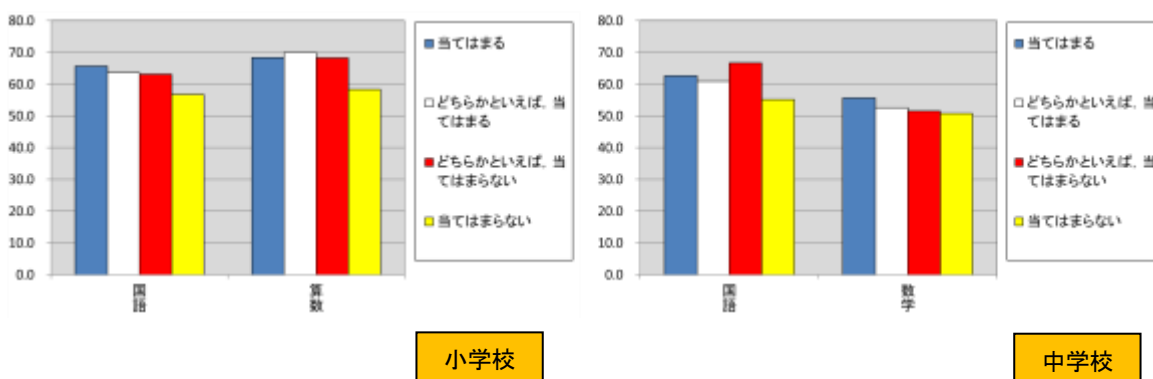
(5) 「自分には、よいところがあると思う」と正答率の相関

「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒は、「どちらかといえばあてはまらない」「当てはまらない」と回答した児童生徒に比べ、平均正答率が高い傾向にある。



(6) 「学校に行くのは楽しい」と正答率の相関

「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒は、「どちらかといえばあてはまらない」「当てはまらない」と回答した児童生徒に比べ、平均正答率が高い傾向にある。



6. 調査結果における課題と改善のポイント

(1) 学校での組織的な取組〔▲改善を要する点 ◆改善のポイント〕

【学習状況調査の結果から】

- ▲小学校、中学校ともに正答数が少ない児童生徒の割合については改善の傾向が見られるが、全国より高い。
- ▲正答率が低い問題は、無解答率が全国に比べ高い。
- ▲経年比較で見ると、国語、算数・数学ともに記述式で解答する問題の正答率が低い傾向にある。記述式は、無解答率が高い傾向にある。
- ▲経年比較で見ると、国語に比べ、算数・数学の正答率が全国に比べ低い傾向がある。

- ◆個々の学習の状況を把握し、少人数指導、習熟度別学習などによりきめ細かな指導を行う。
- ◆長期休業中や放課後に補充学習を行ったり、朝学習の時間を設定したりするなど、学習内容の定着を図る。
- ◆個々の学習状況に応じて、発展的な問題にも積極的に取り組ませる。
- ◆授業の中に、学習のめあてを示したり、まとめたりする学習を位置付けたりするなど、「見通す」「振り返る」学習活動を確実に行う。
- ◆授業の中で、自分の考えを書く活動を設定するとともに、書いたことを交流したり、発表したりする場面を設定する。
- ◆授業や特別活動の中で、自分の考えを深めたり広げたりさせることを意図した話し合い活動を設定する。
- ◆授業の中で、目的や相手を意識した発表の機会を設定するとともに、発表の仕方について指導する。
- ◆話し方、聞き方、書き方などの指導について、系統性のある取組を学校全体で実施する。
- ◆ICTを積極的に活用し、個別学習や協働学習等を充実させる。

【児童生徒・学校質問紙調査から】

- ▲授業時間以外に、1日当たり読書をする時間について、10分以上読書をする児童生徒の割合が全国より低い。

- ◆低学年から本に触れる機会が多く設定されるよう読書指導に関わる全体計画(カリキュラム)を作成する。
- ◆朝読書など、全校一斉読書の時間を設定することにより、読書の機会を設ける。
- ◆学校図書館の活用の仕方についての指導の充実を図る。

【児童生徒質問紙調査から】

- ▲「自分にはよいところがあると思う」と回答した児童生徒の割合が、全国より低い。

- ◆道徳教育や特別活動(学校行事)、キャリア教育の充実をはかり、規範意識や自尊意識の向上を図るとともに、物事をやり抜くことで達成感や満足感を味わわせる。
- ◆できた、わかった喜びを味わわせる指導の工夫を図る。

【児童生徒質問紙調査から】

- ▲学校の授業時間以外に、普段1日当たり、1時間以上勉強する児童生徒の割合が全国より低い。
- ▲中学校では、「全くしない」と回答した生徒の割合が全国より高い。

- ◆家庭での学習方法等について具体例を挙げながら指導することで、主体的に家庭学習に取り組めるようにする。
- ◆生活リズムチェックシートを活用するなど、1日の学習時間を継続して記録し、意識化を図る
- ◆家庭学習のねらいや目的について教職員で共通理解を図るとともに、取組の方法等について具体的な例を挙げながら指導を行う。

(2) 家庭での取組

【児童生徒質問紙調査から】

- ▲学校の授業時間以外に、普段1日当たり、1時間以上勉強する児童生徒の割合を高めていく必要がある。
- ▲授業時間以外に、1日当たり30分以上読書をする児童生徒を増やす必要がある。
- ▲1日あたりテレビゲームをする時間が2時間未満の児童生徒の割合を高めていく必要がある。
- ▲「自分にはよいところがある」と回答する児童生徒の割合を高めていく必要がある。
- ▲「自分で決めたことは、やり遂げるようにしている」と回答する児童の割合を高めていく必要がある。
- ▲「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦する」と回答する生徒の割合を高めていく必要がある。

①子どもの生活リズムを整えましょう

- 生活リズムチェックシートを活用し、子どもが自ら生活を記録する習慣化を図りましょう。
- 起床時刻、就寝時刻が不規則にならないようにしましょう。朝ごはんをしっかり食べてみましょう。(早寝早起き朝ごはん)

②家庭でのルールや目安を決め、しっかり守るよう子どもと約束をしましょう。

- 家庭学習は、【小学校】学年×10分+10分、【中学校】学年×1時間+10分を目標に取り組みましょう。
- テレビ、DVDの視聴時間、ゲームの時間を少なくしましょう。
- 家庭で読書をする時間を設けましょう。
- 携帯電話(スマートフォン)、SNS、メール、インターネットなどは、使用できる時間などのきまりを設けましょう。

③家の中に、勉強ができる環境を作りましょう。

- 新聞やニュースを見る、地図や地球儀を身近に準備するなど、社会に興味を持たせるような準備をしましょう。

④学校での出来事について話を聞く時間を作りましょう。励ましやほめることを大切にしましょう。

⑤子どもが何かに挑戦した時には、結果ではなく、行動したことやプロセスをほめてあげましょう。

⑥地域の行事へ参加させたり、図書館、社会教育施設を積極的に活用させたり、網走のよさにふれる時間をつくりましょう。

◀ 全国より高い傾向を示した主な項目 ▶

■小学校■

- ・よく自分で計画を立てて勉強をしている
- ・今住んでいる地域の行事に参加している
- ・難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦している
- ・人の役に立つ人間になりたいと思う
- ・授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた
- ・英語の授業では、英語で自分自身の考えや気持ちを伝え合うことができていた

■中学校■

- ・よく自分で計画を立てて勉強をしている
- ・毎日同じ時刻に起きている。毎日同じ時刻に寝ている
- ・自分で決めたことは、やり遂げるようにしている
- ・いじめはどんな理由があっても、いけないことだと思う
- ・人の役に立つ人間になりたいと思う
- ・国語の授業では、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりしている

(3) 網走市教育委員会における学力向上の方策

この方策は、これまで網走市教育委員会が取り組んできたものをさらに推進・拡充させていくものと、新たに取り組むものです。

1 教職員の指導力を高めるために、教職員研修の充実を図ります

- (1) 北海道立教育研究所や網走地方教育研修センター等の受講促進、先進地視察研修、公開研究会への参加、オホーツク管内教育研究団体への加入の促進を図ります。
- (2) 市内すべての学校で公開研究会を実施するとともに、網走市学校教育研究実践事業により公開研究会の開催を支援します。
- (3) 教職員の授業力向上のため、北海道教育委員会の専門的教育職員による学校教育指導を要請し、授業改善や研究協議の充実を図ります。
- (4) 「学校力向上に関する総合実践事業」実践指定校、連携校の取組を支援するとともに、効果のある実践指定校の取組を普及させ、教職員の資質の向上を図ります。
- (5) 「網走市学力向上フォーラム」の開催や、先進地への視察研修など、網走市学力向上推進委員会の活動を支援するとともに、網走市教育委員会主催の研修会を開催し、教職員の指導力向上を図ります。
- (6) 読書指導や家庭学習習慣の定着に成果を上げている学校の取組を網走市学力向上推進委員会の中で共有し、各学校における具体的な取組の改善を図ります。

2 子どもの学びを支える教育環境の整備を図ります

- (1) 一人一台端末等 I C T 機器を効果的に活用した授業改善のための調査研究を推進し、研修会等を開催します。
- (2) 学校図書館司書の配置や学校図書の本数の整備など、読書環境の改善や、学校図書館機能の充実を図ります。
- (3) 海外からの英語指導助手（A L T）を複数配置し、小学校段階からの英語教育、国際理解教育の充実を図ります。

3 子どもたちに自ら学ぶ意欲をはぐくみ、確かな学力の定着を図ります

- (1) 学習内容の定着を図るため、長期休業中や放課後の補充学習の充実、少人数指導や習熟度別学習、学習支援員の配置などによる、きめ細かな学習を推進します。
- (2) 子どもたち一人一人の理解を深めるため、学力状況を把握する標準学力検査や、学校での適応感を把握する検査の活用を促進します。
- (3) 学び方に関する「全校共通指導事項」の取組を推進し、学習規律の定着を図ります。
- (4) 家庭での学習習慣確立のために、学校・家庭・地域が連携し、家庭学習の習慣化やテレビ・ゲームの時間の見直しなど、「生活リズムチェックシート」の積極的な活用を図ります。
- (5) 小学校から中学校への円滑な接続、中1ギャップ未然防止のために、中学校校区を中心とした小中連携を推進します。
- (6) 東京農業大学との連携による、「長期休業中の学習サポート」「学習サポート事業（あばしり寺子屋）」を推進します。

4 健やかな学びを支えるために、体力向上の取組を推進します

- (1) 心身ともに健康な子どもを育成するために、保護者、地域とともに、「早寝・早起き・朝ごはん」など望ましい生活習慣の定着、運動に慣れ親しむ機会を作るなど体力向上の取組を推進します。
- (2) スポーツ合宿団体によるラグビー教室などのスポーツ教室を開催します。また、教育長杯ラグビー大会や、オホーツク網走マラソンなどの各種スポーツ大会への参加促進を図ります。
- (3) 1時間の授業の中でできるだけ運動する時間を確保したり、互いに教え合う活動を取り入れたりするなど、楽しく達成感が味わえる体育の授業の充実を図ります。
- (4) 日本体育大学との連携による、「子ども体力づくりサポート」や「体育授業改善研修会」を実施します。

5 特別支援教育の充実を図ります

- (1) 特別支援教育支援員などの人的支援の充実や関係機関との連携を図ります。
- (2) 教職員や保護者の特別支援に対する理解を深めるため、研修会の実施、教育相談体制の充実を図ります。

6 思いやりを大切にし、豊かな心や地域を愛する心を育みます

- (1) 地域・保護者への積極的な道徳の時間の公開など、道徳教育の充実を図ります。
- (2) 「網走市子ども会議」を開催し、子どもが主体的に取り組むいじめ防止の取組を推進するなど、心の教育の充実を図ります。
- (3) 地域に対する愛着や関心を高めるために、地域を素材とした総合的な学習の時間、ふるさと教育、食育などの充実を図ります。
- (4) 「網走市読書感想文コンクール」の実施、家読（うちどく）や朝読書の充実、読み聞かせなどによる良書との出会い、市立図書館による「読書ノート」の積極的な活用により読書の充実を図ります。
- (5) トップアスリートが「夢先生」として市内全小学校を訪問する「夢教室」や、中学生を対象に夢や人生などをテーマにした「子ども夢育事業」を推進するなど、子どもの健全な育成を図ります。

7 地域、保護者との連携を図り、地域とともにある学校づくりを推進します

- (1) 学校と家庭、地域住民等が「地域でどのような子どもたちを育てるのか」、「何を実現していくのか」という目標やビジョン共有しながら、特色ある学校づくりを進めていくために、コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）を推進します。
- (2) 地域、保護者とともにある学校を目指し、「オープンスクール」の実施や「網走市学校支援地域本部事業」によるボランティアの活用など、地域、保護者との連携を図ります。
- (3) 小中学生と地域の高校、大学との交流を推進し、子どもたちの新たな興味や関心を引き出す様々な体験学習等の充実を図ります。
- (4) 心身ともに健やかな子どもを育成するために、網走市PTA連合会と連携し、教育講演会、研修会を開催します。
- (5) ネットトラブルの未然防止を図るために、学習会を開催したり、使用のきまりを作成したりするなど、学校と保護者が連携した取組を推進します。